

まず「誄」の使い方についての考察を再度以下に整理してみる。

道真是、第七十九句・八十句で「〔五言四十韻〕の古詩でもって、「誄」の代用をした」と詠む。その「誄」とは、「①死者の生前の功績をたたえ、その死を悼む」意と、又「②しのびごと。死者を哀悼する文章」のことであるが、前稿（注二）で提起したように、ここでの使われ方は、「誄」を死者を追悼する文章「しのびごと」の漢訳語としてではなく、古代中国本来の「誄」の文体を指していると考ええる。

井上和歌子氏の論文「『空也誄』考―文体、成立の指示、評価―」（『和漢比較文学』一号）に次のような言及がある。

漢文の誄は「――誄并序」、即ち散文の序と韻文の誄の二部で構成される誄は、四字句で押韻する頌で綴るのが通例であった。（中略）誄について、より詳細な説明は『文心雕龍』等の文体論に見える。（中略）この誄に関する文体論は、以下の五点に纏められる。（中略）⑤記述の方法。伝のスタイルで記述し、頌の文を用い、生前の徳を誉め、そして死を悲しむ。称える事と哀悼する事が両立する記述が必要である。（中略）死者の徳行を伝によって記述し、更に哀悼の詞を述べ、かつ声に出して朗読されることが誄に求められたのである。

ここで、この「哭奥州藤使君」の詩に目を移す。井上氏の言及する「誄」の文体とどう関連するのか、又この詩の構成とどう関わるのか、全八〇句を便宜上八句ずつ十段落に分け考察を進める。